SPARCS NEWS
■発信元
SPARCS事務局
■発行責任者
院長　吉田茂昭
■連絡先
青森県立中央病院
経営企画室
☎017-726-8402
Vol. 8
2014年　6月11日発行

「痛みとつらさのスクリーニング」が「がん診療拠点病院の要件」になりました

今年度、県の重点施策事業として、『**青森県がん性疼痛評価手法普及事業**』**が始まります。**

これは SPARCS の取り組みを県内へ普及することを目指しております。地域や医療機関の痛みの評価方法が統一されることは、患者・家族の苦痛軽減につながっていきます。一方、**平成２６年１月１０日付厚生労働省健康局長通知「がん診療連携拠点病院等の整備について」において、指定要件の一つに「がん患者の身体的・精神的、社会的苦痛等のスクリーニングを診断時から外来及び病棟にて行うこと」が追加**されました。2012 年 2 月 15 日から全国に先駆けて行ってきた痛みの聞き取りが、**今後は県内、全国で展開されていくことになります。**

★★★皆様方の痛みへの取り組みが、これからのがん疼痛治療を動かすきっかけになっていきます★★★

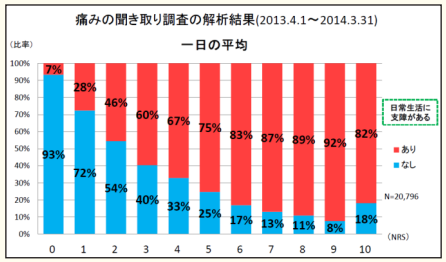
『患者さんの痛みを適切に反映しているかレビューしています』

2013.4.1～2014.3.31 に痛みの聞き取りを行った延べ 22,165 名(実数 1,407 名)の患者を対象に、痛みの強さと日常生活障害の有無との関連について検討いたしました。その結果、「平均の痛み」が強くなるほど日常生活が障害されていると回答する患者数が比例し増えていることから最も適切な質問方法であること(図１参照)、**NRS0～3 の弱い痛みの患者でも日常生活に支障があると 3 割の方が回答していること**が明らかになりました。弱い痛みであるにも関わらず日常生活に障害があると回答した患者がなぜ 3 割いるのか、**困っていることに「痛み以外の影響」が反映されている可能性もあります。**

今後、当院での痛みの聞き取りが地域や県外で広く使われるため、これまでの蓄積されたデータを見直しております。

もう少しこんな質問にしてみたらなど意見がございましたら緩和ケアチームに遠慮なくお声かけください。皆様方が日々の臨床で感じた貴重な体験をぜひ参考にさせていただきたいと思います。

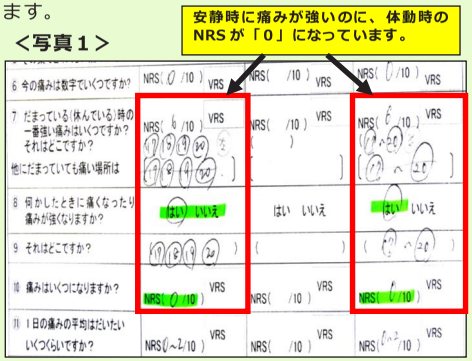
＜図１＞



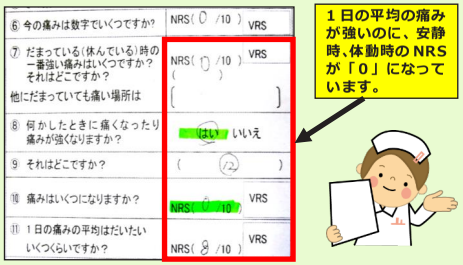
『前習いの聞き取りをしていませんか、NRS0 の解釈は正しいですか』

連日痛みの評価が同じ場合や『前日と同じでいいです』と答える看護師が多くみられます。また、写真１や写真２にみられるように、『体動時の痛みあり』の患者の NRS が 0 と回答する矛盾した聞き取りもありました。NRS0 と答える痛みの評価が適切なのか、もう一度見直していただけるようお願いします。

＜写真１＞



＜写真２＞



SPARCS NEWS
■発信元
SPARCS事務局
■発行責任者
院長　吉田茂昭
■連絡先
青森県立中央病院
経営企画室
☎017-726-8402
Vol. 11
2015年　5月　日発行

緩和ケアセンターからのお知らせ

緩和ケアセンター長　岡林隆弘

緩和ケアセンターの役割についてご紹介いたします。

1．**緩和ケアチームが主体**となり、当院を利用する全ての患者とその家族に対して、**診断時から迅速かつ適切な緩和ケアを提供**する。
2．緩和ケア認定看護師等による**がん看護相談外来**を行う。
3．相談支援センターと連携して**緩和ケアに関する相談支援を提供**する。
4．**緊急緩和ケア病床**を確保して、かかりつけ医や連携協力している在宅療養支援診療所などからの紹介患者を対象とする緊急入院体制を整備する。
5．地域の診療従事者と協働して緩和ケアにおける連携協力を図り**在宅緩和ケアネットワークを構築**する。
6．がん診療に関わる診療従事者を対象とした緩和ケアに関する研修会を開催する。

緩和医療科部長　太田智裕

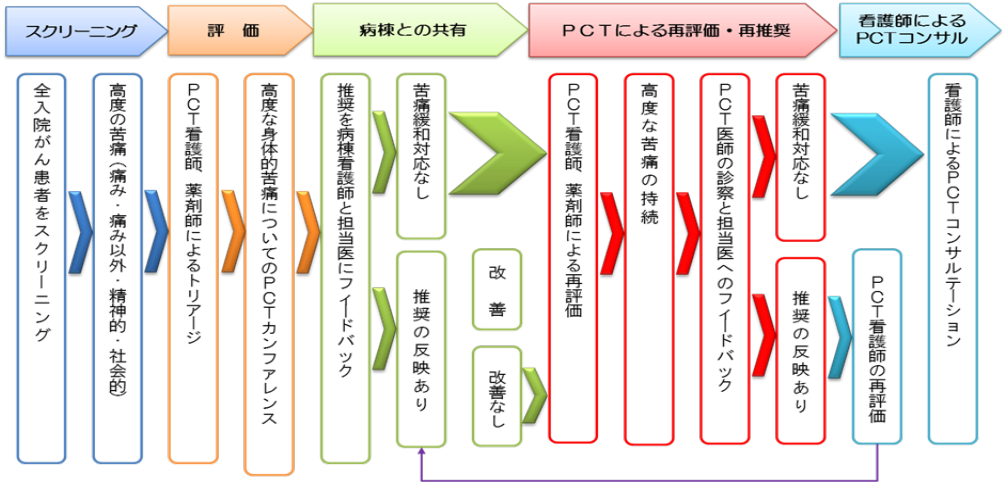
緩和ケアというと、がんが進行して、癌治療ができなくなった患者さんたちを対象としたケアであるととらえていませんか？　でも、すこし考えてみてください。がんの治療（手術、放射線、化学療法）を受けていようがいまいが、がんと診断された患者さんにはいろいろな条件で痛みが出たり、痛み以外にもがんとつきあっていくことで生まれる悩みや、生活、仕事の問題等で悩んだりするなど、いろいろつらい症状が出てくるのは当然の成り行きのことではないでしょうか？　緩和医療科では、早い段階から、痛みや悩み、癌治療に伴う苦痛を的確に評価し、患者さんの状態に合った方法を提供するように努めています。がんによる痛みは適切に対処すれば90%はとることができ、楽に生活できるとされています。痛みでできないことや、困っていることがなくなるように対処せていただくのが緩和医療です。宜しくお願いします。

患者痛みのつらさのスクリーニング・評価・改善に向けた

新システムのお知らせ

2014年1月10日にがん診療連携拠点病院の要件に「スクリーニング結果と緩和ケアチームとの連携」及び「医師以外の職種からも緩和ケアチームにコンサルテーションできるシステムづくり」が新たに明記され、院内の現状及び、これらの要件について緩和ケアチームやがん診療センター会議などで検討を重ね、**今後、高度な苦痛患者を対象に、薬剤師や緩和医療科医師が主科と相談し対応していくこと、必要に応じて看護師から緩和ケアチームへコンサルテーションするシステム**を開始することとなりました(下図参照)。

ご不明な点があれば、緩和ケアチームスタッフにご連絡下さい。皆様方のスクリーニングされた結果が臨床に反映されるようサポートさせて頂きますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



SPARCS NEWS

■発信元
緩和ケアセンター
■発行責任者
院長　吉田茂昭
■連絡先
青森県立中央病院　緩和ケアセンター
（電話）017-726-8344
Vol. 12
2016年3月16日発行

緩和ケア満足度調査のご報告

緩和ケアセンターでは、今年度がん患者と家族の QOL の質向上を目標に入院患者を対象にアンケート調査を実施しましたので、ご報告致します。

調査期間：平成 27 年 8 月 12 日～10 月 23 日の内の 19 日間
調査対象：対象診療科（外科・消化器内科・耳鼻咽頭科頭頸部外科・泌尿器科・血液内科呼吸器内科・呼吸器外科・婦人科）に入院したがん患者 222 名（回収率 60%）

緩和ケアに関する患者の理解度

有効回答数 222 の内、「緩和ケアの説明を受けたことがない」と回答した患者は全体の 76%を占めていました。また、「緩和ケアの意味を知っている」と回答した患者は 3 割程度と低く、8 割の方が「治療前」または「治療開始後」に緩和ケアに関する説明を希望していました。

今後、入院時のオリエンテーションやニュースレター等の広報を通じて患者とご家族に緩和ケアについて説明することを検討しております。皆様方にもがんと診断されたときや治療開始前に、緩和ケアに関する説明をさせて頂きますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

身体や気持ちのつらさへの対応と医師・看護師に望むこと

患者は、身体や気持ちのつらさへの対応ついて 9 割が満足していると回答しておりました。医療者に望むことについて、医師には 48.2%、看護師には 32.4%より一層改善して欲しいという声が聞かれました。（図１・図２参照）

図１　医師へ望むこと　n=106

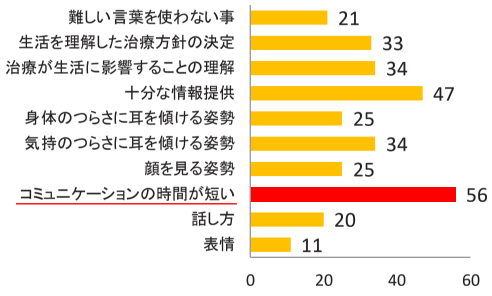
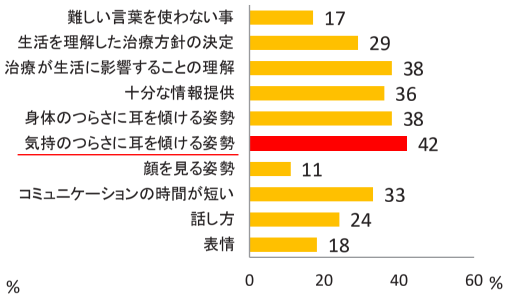


図２　看護師へ望むこと　n=72



緩和ケアセンターでは、がん患者と家族の QOL 向上を目標に、今後も継続して患者の声に耳を傾けていきたいと考えております。

皆様方のご協力なしには、青森県立中央病院の緩和ケアの普及の向上は望めません。ご多忙とは思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果はがん診療センター会議で報告した内容を一部抜粋したものになります。詳細につきましては、がん診療センター会議資料、または緩和ケアセンターにお問い合わせ頂きますようお願い致します。

痛みを聴き、受けとめる！

痛みからの解放のために

SPARCS
Special Project Awareness and Relief of Cancer Symptoms

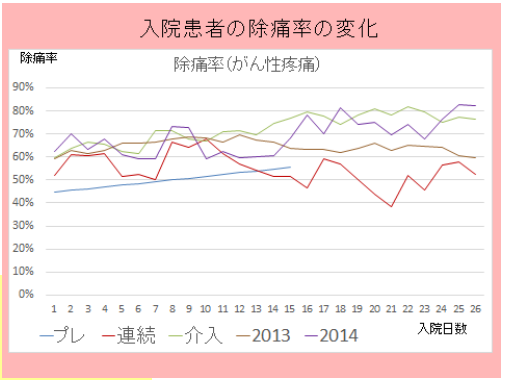
青森県立中央病院の取り組み

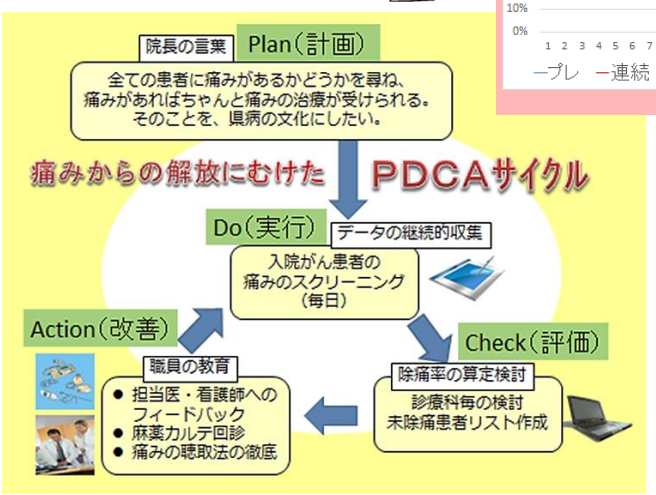
2014 年度のがん診療連携拠点病院整備に関する指針に、「がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングを診断時から外来及び病棟にて行うこと。また、院内で一貫したスクリーニング手法を活用し緩和ケアチームと連携し患者の苦痛を迅速かつ適切に緩和する体制を整備すること」　が明記されました。

青森県立中央病院では、2012 年から全がん患者に対し、毎日痛みを聞き取り、院内全体で『痛みからの解放』をスローガンに取り組んで参りました。この『痛みからの解放』に向けた取り組み：PDCA サイクルにより、当院の除痛率は改善に向かっています。

一緒に取り組みを進める仲間を求めています！

当院の取り組みに興味をお持ちの方、また詳しく内容を知りたい方は、お気軽にご連絡下さい。
お待ちしています！





☎お問い合わせ先

■青森県立中央病院
017-726-8111 (代表)

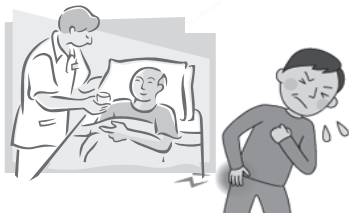
■緩和ケアセンター
山下看護師
070-6466-8084

■Mail
sparcs_pct@aomori-kenbyo.jp

全がん患者の痛みとつらさのスクリーニングとケア提供システム

【全がん患者：病棟看護師毎日聞き取り】

日付	記録
昨日の今頃から今までに生活に影響する痛みはあり？	
昨日の今頃から今までの鎮痛薬は使いましたか？	
昨日の今頃から今までの痛みは十分取れていたか	
安静時に一番痛い部位番号	(
一番痛い時の NRS	(/
一番弱い時の NRS	(/
1日の平均の NRS	(/
生活に支障がある 安静時痛の部位番号全て	[
動作時に一番痛い部位番号	(
一番痛い時の NRS	(/
一番弱い時の NRS	(/
1日の平均の NRS	(/
生活に支障がある 動作時痛の部位番号全て	[
PS（0～4）	
昨日の夜は眠れましたか	良眠



がんの患者さんが入院

【がん患者入院リストを病棟配布】

緩和ケアセンターで
入院がん患者を毎日把握

【緩和ケアセンターに集約】

事務員1名体制でデータ入力
データをもとに「痛みで困っている患者リスト」を作成

痛みで出来ない事や困っている事がある患者さんのリスト

こちらは下記調査日に痛みによって生活に何らかの支障がある患者さんのリストです。ご参照くださいますようお願いいたします。

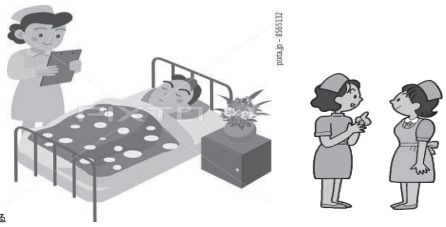
診療科　呼吸器科（6東）　該当者　6　名

調査日　2014/12/04

No.	チーム	患者ID	患者氏名	困っていること	NRS最大値 安静時	NRS最大値 動作時	痛みの原因	主治医
1	A	00878517	近藤 忠宗	歩く、座る、排泄	0	3	がん	三浦 大
2	A	01069956	森内 弘	咳る、歩く、座る	0	5	がん	三浦 大
3	A	03172001	齋藤 俊介	咳る	0	6	がん	長谷川 幸裕
4	A	03193556	稲名 賢	咳る、立つ、歩く、座る	1	6	がん	三浦 大
5	B	00697869	山本 毅弘	歩く、座る OPI 12/3	2	2	がん治療・検査	石橋 直也
6	6東A	03211852	畑中 ユミ	歩く	0	5	不明	三浦 大

【PCTと外部の医師らとテレビ会議、改善策を推奨】

【PCT専従看護師がラウンドし評価しアドバイス】

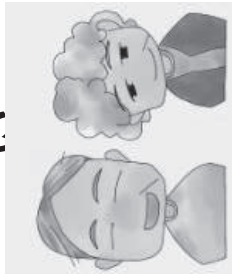


緩和ケアチームの非介入患者を
対象としている患者

【主治医、病棟にフィードバック】

緩和力

あなたが困っている症状を伝えて下さい



緩和ケアセンターでは、がんの痛みなどの「困っている」に対応します！

- 痛みなどで「困っている」ことが強い、または長く続く患者さんには、緩和ケアセンターの専門的知識をもつ看護師が訪問して、お話を伺うことがあります。これは主治医や病棟看護師と話し合って最善策を考えるためです。ご遠慮なく身体や心の「困っている」をお話し下さい。
- 最善策を考えるにあたっては、県病が嘱託する医師＊や薬剤師†から最新・最良の治療アドバイスを受けることがあります。

＊　中京病院（名古屋市）　吉本鉄介
†　長崎大学病院　龍恵美、聖隷浜松病院（浜松市）塩川満

患者さん・ご家族が充実した日々を過ごすことができるよう支援します。

平成28年3月　青森県立中央病院緩和ケアセンター